





# 呉羽丘陵 11月の見どころ紹介

## 主などんぐりの見分け方

<p>●コナラ 殻斗(かくと) はうろこ模様</p> 	<p>クヌギ 殻斗(かくと) は反り返る</p> 
<p>●シラカシ 殻斗(かくと) はよこじま模様</p> 	<p>マバテシイ 殻斗(かくと) はうろこ模様</p> 

・うち渋みのないのは「マテバシイ」 また、実が落ちた翌年に芽吹くのはコナラ、他は2年後

## ●カラタチバナ(群落多し)



サクラソウ科ヤブコウジ属の常緑小低木。果実は11月頃に赤色に熟し翌年の4月頃まで残る。マンリョウ(万両)、センリョウ(千両)、カラタチバナ(百両)、ヤブコウジ(十両)

## ●カラスウリの実(呉羽トンネル上)



日本原産、ウリ科。青い実は食べられます。果実・種・根ともに生薬として利用されています。ゼンソクやしもやけなど

## ●ソヨゴ(多数)



葉に赤い実を吊り下げる姿が好まれ、庭木として人気があり、公園木や庭木として植栽もされている。北限は新潟-宮城ライン。火災に強く森林火災の軽減としても活用される。

## ●サルトリイバラ(群落多し)



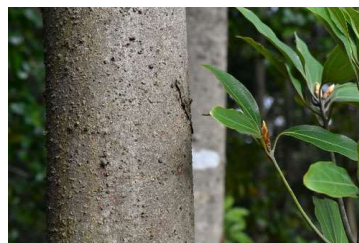
山野や丘陵に自生する雌雄異株のつる性の半低木。若葉は5-6月、果実は10-11月ごろに採取し、食用にできる。若葉はくせがなく、軽く茹でて水にさらし、おひたしや和え物、炒め物などに調理される。赤い果実は、そのまま生食したり、焼酎に果糖を加えて漬け込んで果実酒にもできる。

## ●ヤブミョウガ(杉木立付近)



葉は表面がざらつくところ、葉が2列に出ないことなどでミョウガと区別できる。なお、ヤブミョウガはツユクサ科、ミョウガはショウガ科であり、薬味のミョウガはツボミに白い花を咲かせる。

## ●シロダモ(トンネル上)



東北地方中部以南の本州、四国、九州及び沖縄に分布するクスノキ科シロダモ属の常緑樹。葉の裏面が著しく白いためシロタブと呼ばれ、それが転訛してシロダモとなった。葉をちぎるとクスノキ科に特有の樟腦の香りがある。乾燥させた葉は押し花やリースの材料として使われることも。